

背景と目的

- 高知県は...
  - ・アカウミガメの四国最大の産卵地。
  - ・季節を問わず成体が来遊する。
- 回遊経路と環境に対する応答評価は...
  - ・生存戦略を紐解く一助となる。

産卵地近海・摂餌域における成体に関する情報収集が目的

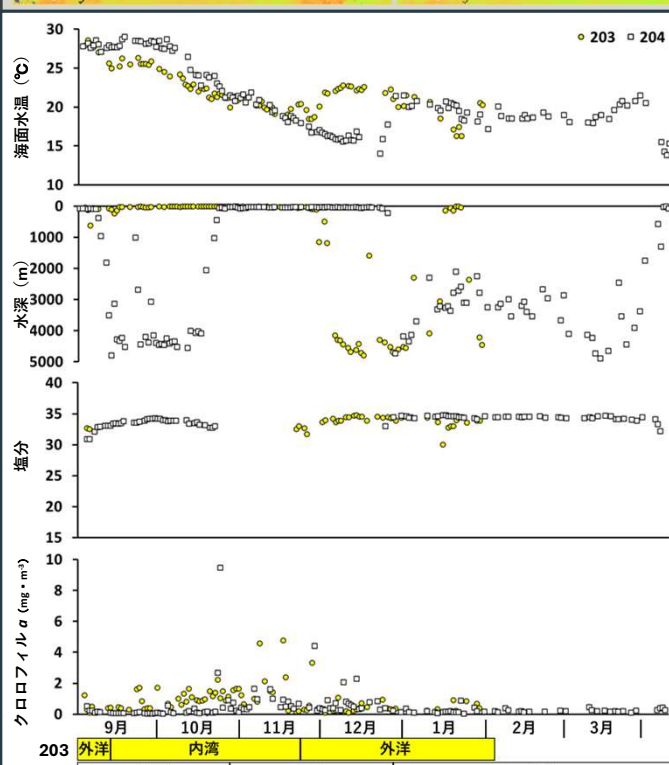
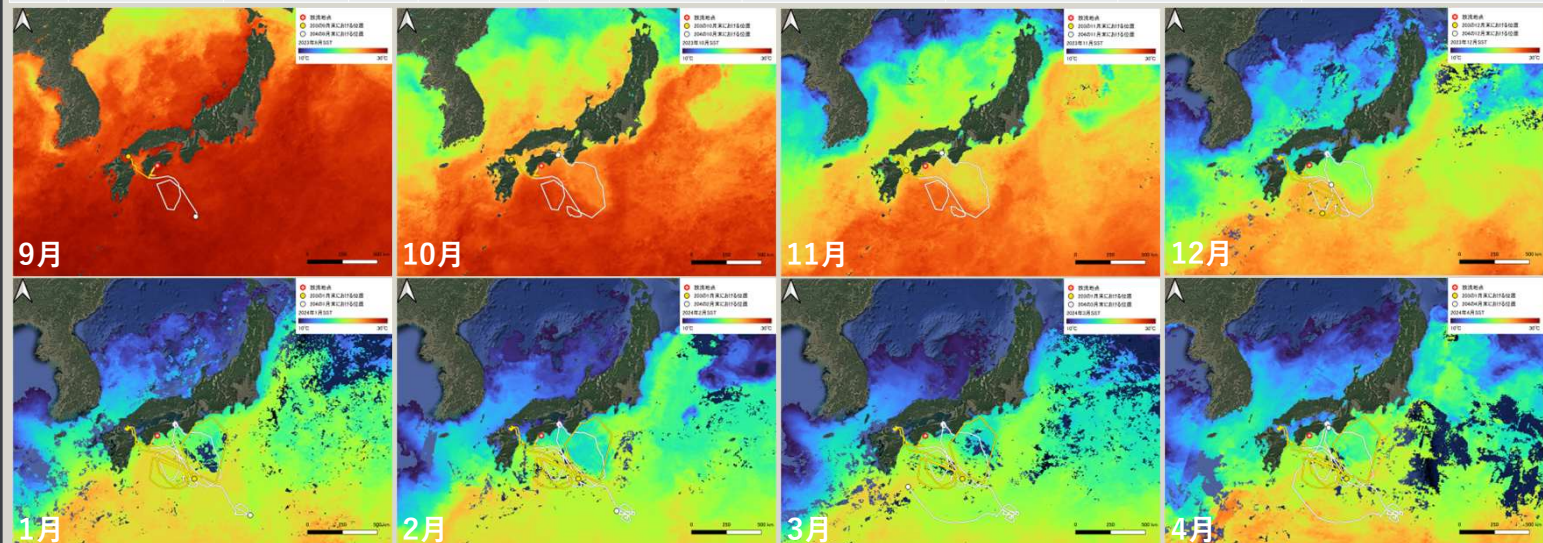
方法

- 高知県室戸市の定置網に混獲された個体を用いた。
- 衛星発信器 (SPOT-387 Wildlife Computer) をBalazs et al. (1996) の方法に基づき装着, 土佐湾沿岸より放流。
- 位置情報は精度が0以下または移動速度が $5 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}$ 以上のものは除外。
- 一日あたり1データとなるようフィルタリング。
- リモートセンシングデータ\*と照合。  
\*各地点の海面水温, 海流の流向流速, クロロフィルaはJAXA-RIKEN海洋解析塩分はNASA World view, 水深はGoogle Earthを使用。

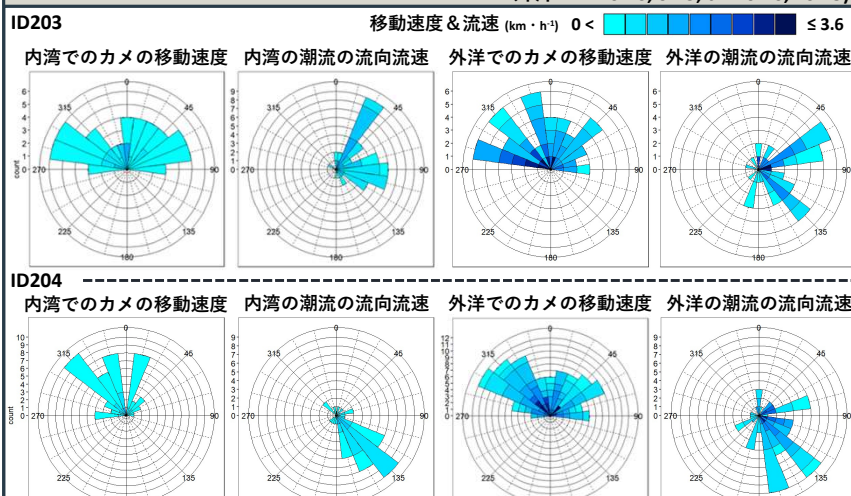


結果と考察

ID	直甲長 (cm)	体重 (kg)	性別	捕獲日	追跡開始日	追跡終了日	追跡期間 (日)	追跡距離 (km)	平均移動速度 ( $\text{km} \cdot \text{h}^{-1}$ )
203	78.8	74.1	メス	2023/8/30	2023/9/1 08:13	2024/2/3 04:54	155	4087.1	1.1
204	77.0	67.0	メス	2023/8/22	2023/9/1 06:56	2024/4/14 12:27	226	5442.9	1.0



- 203は放流後, 伊予灘・周防灘 (内湾) に約70日間滞在。11月末に外洋へと移動。
- 204は放流後, 南西方向に下り, 外洋へと移動。10月下旬に太平洋を北上し, 11月初旬に淡路島近海 (内湾) に約60日間滞在。その後, 12月下旬に再び外洋へと移動。
- 海面水温 (= 経緯水温) が内湾では経時的に低下, 外洋へ移動後は安定。(Mann-Kendall検定 内湾:  $P < 0.0001; \tau = -0.84, -0.82$  外洋:  $P = 0.16, 0.13; \tau = -0.16, -0.15$ )



○203と204の移動速度は外洋では $1.51 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}, 1.34 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}$ , 内湾では $0.34 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}, 0.25 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}$

○いずれもウミガメの移動方向と海流の流向は有意に異なる。(Fisherの正確確率検定:  $P < 0.0001$ )

○先行研究の内容を支持。  
 ・黒潮には従わず,  $0.8\text{--}1.5 \text{ km} \cdot \text{h}^{-1}$ で移動 (Sakamoto et al., 1997)  
 ・夏季は日本沿岸で摂餌し, 冬季は外洋へ移動するタイプ (Okuyama et al., 2022)  
 ・水温低下に伴う北から南への摂餌域の季節移動 (Fujita et al., 2023)

**海流には従わず能動的に回遊する  
海面水温に依存し都度, 摂餌域を移動する**

謝辞: 混獲個体の確保にあたり, むろと廃校水族館および椎名大敷組合, 高岡大敷組合にご協力いただきました。